新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

シジュウカラ第94号

§　令和元年度愛鳥講演会　§

令和元年度の愛鳥講演会は
「シギ・チドリの繁殖」がテーマでした。
　自然の素晴らしさや野生生物保護の大切さを伝えるために、毎年、愛鳥講演会を開催しています。今年は 68 人の県民の方よりご参加いただきましてありがとうございました。

日時　11 月 23 日(土･祝)13:00～15:30
会場　新潟県立生涯学習推進センター １階ホール
後援　新潟県野鳥愛護会・日本野鳥の会新潟県
講演「内陸のシギ・チドリの観察」
　　藤田正明氏（新潟県野鳥愛護会）
　「新潟県におけるシギ・チドリ類の繁殖生態」
　　千葉晃氏（日本歯科大学名誉教授）

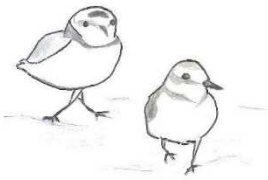
愛用のカメラを手にして説明する藤田氏

　種類が多いシギ・チドリですが、その多くは春と秋に通過する渡り鳥です。藤田先生からは、それぞれのシギ・チドリ類の特徴を、先生が観察した動画を見ながら解説していただきました。新潟県は信濃川・阿賀野川をはじめとする多くの河川、福島潟・鳥屋野潟などの湖沼、そして米どころとして各地に広がる水田など、シギ・チドリ類の好む水辺の環境に富んでいます。そのなかでも、それぞれの生息環境や餌のとり方によって体の大きさや嘴の形などが違う点が機能的でとても興味深く、参加者も熱心に聞き入っていました。先生の撮影技術についてもお話しいただき、参加者からは「身近な写真機で手軽に写せることを知り、自分でも試してみようかと思いました」と感想をいただきました。

　シギ・チドリのうち、本県で繁殖するのは 10 種程度で、その多くが県の絶滅危惧種に指定されています。そのうちの 7 種のシギチドリの貴重な繁殖過程の様子を千葉先生から講演いただきました。

シギ・チドリの貴重な映像を解説する千葉氏

　はじめに雌雄や年齢の差、特徴的な鳴き声・姿勢・行動、さらに種間の比較という観察視点をもつことで、繁殖習性や生物多様性の理解にもつながるという話のもと、具体的に繁殖過程の行動をお話しいただきました。
　雌を巡る雄同士の攻防や、怒ったような姿勢で背中の羽を立てる配偶者防衛、雄による雌の追い掛け・接近行動、追い掛けとお辞儀鳴きの求愛、誇示飛翔、交尾後の寄り添い行動、目の瞳孔が縮小する様子など、それぞれの繁殖行動を映像を見ながらわかりやすく解説いただきました。特徴的なポーズや行動が頭に入っていることで、どこかでその貴重な場面に出くわす機会が来るかも知れません。また、貴重な繁殖地の観察では配慮が必要なことも学びました。
　日頃の観察を今後の生態解明や保護につなげたいという先生の思いが伝わってきました。
　参加者からは、「身の周りにシギ・チドリは意外にいるのだと思い、今後注意して観察したくなった」「動画や写真を使ってわかりやすい内容でした」などの感想をいただきました。



カラフトムジセッカ初収容

令和元年10月に愛鳥センターで初めてカラフトムジセッカを収容しました。新潟市中央区からの収容でした。新潟県内では数年に一度程度記録されている珍しい鳥です。カラフトムジセッカは名前にセッカとつきますが、ムシクイの仲間です。

外見は全体的に茶色っぽい印象ですが、上面にオリーブ色味がありました。脇は褐色で、下尾筒は橙色味があり、お腹には細い黄色の縦斑がありました。

尾が長めで、全体的なシルエットはウグイスに似ているように見えますが、尾羽の枚数が12枚でした。ウグイスでは尾羽が10枚です。

他に似ている種類にムジセッカ、モウコムジセッカがいます。外見の特徴でも識別できますが、違いが出るのが嘴の太さだそうです。この個体の嘴高(鼻孔後端)は3.33mm、嘴幅(鼻孔後端)は4.09mmでした（カラフトムジセッカの嘴高3.2−3.9mm、嘴幅3.5−4.4mm)。(引用：ヨーロッパ産スズメ目の識別ガイド)

ムジセッカ、モウコムジセッカではもっと嘴が細いです(と言っても小さい鳥なのでわずかな違い)。図鑑を見てもよく似ていますし、野外での識別は悩みそうですね・・。

解剖の結果、オスの幼鳥であることがわかりました。

この個体の剥製を１階展示室に展示中です。ご来館の際にはぜひご覧ください。

§８月～11月の探鳥会・観察会§

8/25（日）シギ・チドリ観察会　9:00～11:00　（晴れ）
場所：聖籠町網代浜～次第浜　参加者：39名　観察種：21種【①】

遠くのテトラポッドにとまっているウミネコやウミウなどを観察してから砂浜を歩きました。シギチドリの観察会なのに、最初の方はシギチドリが全然出ず、ようやく出現したのはシロチドリ。その後ソリハシシギ、キアシシギが出現。折り返して戻る途中にようやくトウネンを見つけました！ミサゴが魚を持っている姿も見ることができました。

多くの参加ありがとうございました。

8/31（土）マツムシの声を聞く会（紫雲寺記念公園プロモーションパートナー共催）18:00～20:00（曇りのち晴れ）
場所：紫雲寺記念公園　参加者：14名　観察種：14種

マツムシなどの標本で観察しました

愛鳥センターの駐車場で、ヒゲシロスズやエンマコオロギなどの声が聞こえました。
暗くなるにつれて、少しずつ鳴き始める虫の種類も変化します。鐘をたたくような音のカネタタキの声や、メインのマツムシの声も聞こえてきました。

9/22（日）秋の公園探鳥会　9:30～11:30　（曇一時雨）
場所：五十公野公園　参加者：30名　観察種：24種【②】

樹陰で休むコガモ

升潟の奥の方の樹陰にコガモがたくさんいました。カワセミの美しい姿も見ることができました！小鳥類は少なめですが、コサメビタキを見つけることができました。ヤマガラが木の実を足で押さえてつついている姿も見られました。

10/20（日）秋の渡りを見る会　9:00～11:00　（曇り）
場所：福島潟　参加者：25名　観察種：38種【③】

ビュー福島潟のテラスから田んぼにいるコハクチョウを観察してから潟端に移動しました。
天気がよく、ヒバリがさえずりながら飛んでいました。水面にはコガモやマガモなどカモ類がたくさん休んでいました。ノスリやオオタカなど猛禽類もじっくりと見ることができました。

10/26（土）紫雲寺記念公園探鳥会（紫雲寺記念公園プロモーションパートナー共催）　9:00～10:30　（曇り）
場所：愛鳥センター探鳥路　参加者：10名　観察種：18種【④】

最初にレクチャールームで、見られそうな鳥や双眼鏡の使い方についてのお話をしてから外に出ました。探鳥路では、ヒヨドリやトビやカワウが上空を飛んでいく姿を観察しました。アオゲラやアカゲラの鳴き声が聞こえ、飛んでいくシルエットも見えました。最後にキクイタダキやヒガラなどを全員で観察できました。

11/17（日）冬の初心者探鳥会　8:00～9:30　（晴れ）
場所：瓢湖　参加者：13名　観察種：31種【⑤】

湖岸でいろいろな種類のカモの特徴を確認しながら観察をしました。岸近くにはオナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロがたくさんいました。珍しくヨシガモのオスが１羽すぐ近くで見ることができました！オオタカ、チュウヒ、ハヤブサが同時に飛んだり、オジロワシが上空を通過するなど、猛禽類も多く見られました。

湖面に漂うカモ類

No.	種名	①	②	③	④	⑤
1	ヒシクイ			●		
2	コハクチョウ			●		●
3	オオハクチョウ					●
4	ヨシガモ					●
5	ヒドリガモ			●		●
6	アメリカヒドリ					●
7	マガモ		●	●		●
8	カルガモ		●	●		●
9	ハシビロガモ					●
10	オナガガモ		●	●		●
11	コガモ		●	●		●
12	ホシハジロ			●		●
13	キンクロハジロ					●
14	ミコアイサ					●
15	カイツブリ		●			●
16	カンムリカイツブリ			●		●
17	キジバト	●		●		
18	カワウ			●	●	●
19	ウミウ	●				
20	ゴイサギ		●			
21	アオサギ	●	●	●		●
22	ダイサギ			●		●
23	オオバン			●		●

No.	種名	①	②	③	④	⑤
24	シロチドリ	●				
25	キアシシギ	●				
26	ソリハシシギ	●				
27	イソシギ	●				
28	ミユビシギ	●				
29	トウネン	●				
30	ウミネコ	●				
31	オオセグロカモメ	●				
32	ミサゴ	●				
33	トビ	●	●	●	●	●
34	オジロワシ					●
35	チュウヒ			●		●
36	オオタカ			●		●
37	ノスリ			●		
38	カワセミ		●	●		
39	コゲラ		●			
41	アカゲラ		●	●	●	
42	アオゲラ			●	●	
43	ハヤブサ					●
44	モズ		●	●		
45	ミヤマガラス			●		●
46	ハシボソガラス	●	●	●		●
47	ハシブトガラス	●	●	●	●	

No.	種名	①	②	③	④	⑤
48	キクイタダキ				●	
49	ヤマガラ		●		●	
50	ヒガラ				●	
51	シジュウカラ	●	●	●	●	
52	ヒバリ			●		
53	ツバメ	●	●			
54	ヒヨドリ	●	●	●	●	●
55	ウグイス			●	●	
56	メジロ		●	●	●	
57	ムクドリ			●		●
58	シロハラ				●	
59	ツグミ			●	●	
60	コサメビタキ		●			
61	スズメ	●	●	●	●	●
62	ハクセキレイ		●	●		●
63	セグロセキレイ		●	●		●
64	カワラヒワ	●		●	●	
65	ホオジロ	●	●		●	
66	アオジ			●	●	
67	オオジュリン			●		
	計	21	24	38	18	31

§傷病鳥獣の収容状況§

収容NO.	種類	7月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	11月末収容数	収容NO.	種類	7月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	11月末収容数
（鳥類）								34	カワセミ		1	1			0
1	ヤマドリ		1			1	0	35	アカゲラ		1			1	0
	キジ	1		1			0		チョウゲンボウ	2				1	1
2	コハクチョウ	2	6			3	5		ハヤブサ	1					1
3	マガモ		1			1	0	36	チゴモズ		1				1
4	カルガモ	1	3	3		1	0	37	モズ		1			1	0
5	オナガガモ		1			1	0	38	オナガ		3	1		2	0
6	コガモ		1			1	0		ハシボソガラス	2					2
7	キンクロハジロ		2	1		1	0	39	キクイタダキ		2	1		1	0
8	カンムリカイツブリ		1	1			0	40	コガラ		1	1			0
9	キジバト	2	5	4			3	41	ヒガラ		1			1	0
10	アオバト	3	2	1		1	3	42	ツバメ	4	6	3		5	2
11	オオミズナギドリ		8	6		1	1	43	ヒヨドリ		5	2		3	0
12	ヨシゴイ		2			2	0	44	ウグイス		11	4		7	0
13	ゴイサギ		1	1			0	45	ヤブサメ		1			1	0
14	アマサギ		1			1	0	46	カラフトムジセッカ		1			1	0
15	アオサギ		2			2	0	47	メボソムシクイ		3	1		2	0
16	ダイサギ		1			1	0	48	センダイムシクイ		2			2	0
17	チュウサギ		4			4	0	49	メジロ		2	2			0
18	コサギ		1			1	0	50	エゾセンニュウ		2	1		1	0
19	オオバン		3			3	0		マミジロ	1					1
20	ツツドリ		2	2			0	51	マミチャジナイ		1				1
21	メダイチドリ		1	1			0	52	ルリビタキ		2			2	0
22	ヤマシギ		2	1		1	0	53	キビタキ		2	1		1	0
23	ウミネコ	2	2	2		1	1	54	スズメ		3			3	0
24	オオセグロカモメ		1				1	55	ハクセキレイ		1			1	0
25	トビ	7	2	2		1	6	56	カワラヒワ		3	1		2	0
26	オオタカ		4	1		3	0	57	カシラダカ		2	2			0
27	サシバ		1			1	0	58	ドバト		3	1			2
28	ノスリ	4	3	1		1	5	59	不明		5	2		3	0
	クマタカ	1					1	小計		35	139	57	0	79	38
29	オオコノハズク		1	1			0								
30	コノハズク		2			2	0	（獣類）							
31	フクロウ	1	3	2		1	1		ムササビ	1				1	0
32	アオバズク	1	1	2			0	小計		1	0	0	0	1	0
33	アカショウビン		2			2	0	合計		36	139	57	0	80	38

令和元年8月1日～11月30日までの収容数は、鳥類59種139羽、獣類0種0頭で、昨年度の同時期（鳥類157羽 獣類2頭）と比べ鳥・獣類とも減少した。

＜特記事項＞

・ メダイチドリ

令和元年9月28日、胎内市胎内川河口で保護され、翌日センターに収容された。
両下肢が麻痺して起き上がれず、左翼に外傷があり、衝突によるものと思われた。
給餌及び投薬治療を施した結果、症状が回復し、10月9日に放鳥した。
収容時の体重：50g
この個体は、平成8年に次いで2例目。

＜その他＞

・ カラフトムジセッカ（死体収容）・・・初記録
・ チゴモズ・・・ 5例目（平成16年収容以来）

メダイチドリ

§令和２年度愛鳥週間用ポスター原画募集新潟県大会§

令和２度愛鳥週間用ポスター原画募集新潟県大会の審査会を令和元年９月 11 日に愛鳥センターで行いました。このポスターの原画募集は、製作過程を通して野鳥愛護思想の高揚を図る目的で、県内の愛鳥モデル校を中心に毎年募集しています。

今年度は、小学校から 265 点（13 校）、中学校は 45 点（10 校）の応募がありました。

今年度は鳥の羽ばたく様子や、生態などを取り入れるなど躍動的な作品が目立ちました。また、鳥への優しい思いや、親しみを感じさせる構図が多く見受けられました。

小学生の部で金賞に選ばれた南魚沼市立第二上田小学校６年石坂美莉さんは鳥を観察し、表情や配色などを上手く再現されていることが評価されました。

中学生の部で金賞に選ばれた見附市立西中学校３年の杵渕沙映さんは、キジのオスとメスの行動の違いを観察し、キジの繁殖期の特徴である肉ヒダやメスが身を隠す様子などを上手く表現されているところが評価されました。

金賞・銀賞の作品は、（公財）日本鳥類保護連盟が主催する全国大会へ応募しました。

小学校の部　金賞
石坂　美莉　さん
（第二上田小６年）

中学生の部　金賞
杵渕　沙映 さん
（見附西中３年）

§全国大会結果報告§

10 月 18 日に「令和２年愛鳥週間用ポスター原画コンクール」審査会が東京都で開催され、応募総数 47,309 点の中から、中学校の部で県大会金賞の見附市立西中学校３年杵渕沙映さんが「入選」されました。

〈審査結果〉

賞	小学校の部	中学校の部
金賞	石坂　美莉　（第二上田小６年）	杵渕　沙映　（見附西中３年）
銀賞	大友　湧月　（中条小５年） 田中　ことは（紫竹山小２年）	鈴木　優介　（新井中１年）
銅賞	小林　佳帆　（藤塚小３年） 涌井　永太　（芦ヶ崎小６年） 松縄　はるの（明治小４年）	松田　菜々　（見附西中１年） 平瀬戸　優空（新井中１年）

※愛鳥センターホームページで受賞作品を見ることができます。

§全国野生生物保護実績発表大会　林野庁長官賞受賞　§

第 54 回全国野生生物保護実績発表大会（環境省・（公財）日本鳥類保護連盟主催）が 11 月 25 日に東京の環境省で行われ、新潟県が推薦した上越市立春日小学校が林野庁長官賞を受賞しました。

春日小学校は愛鳥モデル校として、春日山を拠点として昭和 39 年より活動しています。

発表では、上杉謙信が残した春日山を地域住民が協力し守り続けていて、春日小学校も「春日山戦隊　にじいろレンジャー　～守ろう！　私たちの春日山～」をテーマに、春日山での探鳥会や、自然を守るために、地域の方と協力し松葉を集める「松葉かき」、山の斜面の修復をするため、袋に土を入れて本丸まで運び上げ崩壊箇所に土を盛る運動である「義の土一袋運動」を行っています。

堂々と発表できました

４年生は、探鳥会を行うことで野鳥の種類や個体数を知り、春日山が自然豊かな場所であることを発表しました。

講評では鳥を指標とした自然分析を長年に渡り行ってきたことが評価され林野庁長官賞受賞しました。

§にいがた環境フェスティバル２０１９§

11月10日に新潟市万代島多目的広場で開催した「にいがた環境フェスティバル」（新潟県主催）で愛鳥センターブースを出展しました。

このイベントは「新潟の未来の環境をみんなで考えよう！を合い言葉に、子どもから大人まで環境について楽しく学ぶ」をテーマに、県内の事業所や行政関係者が出展しました。

愛鳥センターは、釣り針やテグスの被害にあった鳥の写真や、剥製、バードカービング、さわれる羽や足の標本などを展示しました。子どもたちは、普段は野鳥に触れる機会があまりないと思いますが、ハクチョウの羽根が硬くてしっかりした感じだったり、フクロウの羽根がフワフワだったり、種類によって違うことを感じてもらう機会になったと思います。

たくさんの方が訪れてくれました

◆　８～11　月の利用者

月	8月	9月	10月	11月	計	累計
来館者数	559	1072	825	687	3,143	629,158

館内設置のトキ募金箱の報告

令和元年８月～令和元年11月 **2,814 円**

累計**２９５，３６０円**

みなさまの暖かい善意に深く感謝いたします。

今後ともご協力をお願いいたします。

新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

開館時間：午前９時～午後４時

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）

〒957-0231 新発田市藤塚浜海老池

Tel 0254-41-4500／Fax 0254-41-4501

HP：http://www.pref.niigata.lg.jp/aicho/

E-mail：ngt035310@pref.niigata.lg.jp

ヒナの近くには親鳥が必ずいます。ヒナは親鳥と一緒に行動し、餌の取り方、敵からの身の守り方を学びます。拾ってあげたくなりかもしれませんが、子育ての邪魔しないようにそっとしてあげることが大切です。

３月までの行事予定

探鳥会《参加費、申込み不要です。現地集合・解散となります。双眼鏡や図鑑の貸出しがあります。》

・ハクチョウを見送る会（お幕場大池駐車場集合・村上市）
3/1（日）　9：00～11：00

講演会（申込みが必要です）

・新潟県野鳥保護の集い（瓢湖）
2/16（日）　10:00～15:00
内容：午前：探鳥会(瓢湖)
午後：野鳥保護の集い(阿賀野市福祉会館)
講演会、各地の冬鳥情報など
申込み・問合せ：愛鳥センター 0254-41-4500
申込締切：２月９日（日）まで
参加費：無料　/　定員：100名（先着）
対象：小学校高学年以上

特別展　２階ロビー

・冬季特別展
冬の落とし物～冬は楽しい痕跡探し～
期間　～2/16（日）（展示中）

・令和元年度野鳥写真展
入賞作品14点の他、応募された全147点を展示します。期間　2/22(土)～5/6(水)

※令和２年４月～６月の行事については、３月上旬にホームページ等でお知らせします。